災害エスノグラフィー演習　体験談

Ｃさんのケース

【基本情報】

年　　齢：60代後半

居住地区：岡山県倉敷市真備地区

家族構成：ご主人と二人暮らし

避難行動：避難せず

建物構造：２階建て

自宅被害：全壊

住所地のハザードマップ上の危険：洪水による浸水５ｍ程度

避難行動要支援者該当の有無：なし

7/5 18:30　岡山地方気象台が【大雨警報】を倉敷市に発表

19:40　岡山地方気象台が【洪水警報】を倉敷市に発表

私は、6日(金)の昼間に地域の会議に出ていました。

その晩、長女が、ちょっと雨を心配して、家にご飯を食べに来てくれました。うちは、3人娘がいまして、全員家から出ているものですから。それで、夜の9時半頃、長女が帰るときに外へ出たら、うちの前の道に、幅1.5メートルぐらいの用水があるのですが、水がもう、ひたひたで、道が浸かる寸前だったんです。だから、娘が「もう、水で浸かるよ」ということで、主人と娘と3人で、車3台を少し高い所まで移動させました。以前にも、排水機場のポンプが壊れて水が道路に来たことがあったので、その時のように、少し高い所に車を置いて置けば大丈夫だろうと思って3台を移動させました。

車を移動させた後、娘には、早く帰れと言って、帰しまして、私と主人は家にいたんですけど、そのときは、水が、家の中までそんなにたくさん上がってくるなんて、思わなかったんです。

22:00 倉敷市が【避難勧告】発令 真備地区全域（洪水警戒）

それで、家に二人でいたら、夜10時半頃に、停電になったんです。真っ暗の中で、ロウソクを主人と2人で2本つけて、どうすることもできないので、ずっと待機の状態でした。

22:40　岡山地方気象台が【特別警報（大雨）】を倉敷市に発表

停電になってしまったので、携帯の電池がなくなってしまわないかと、不安でした。命綱がこれしかなかったので。だけど、しょっちゅう電話がかかってくるから、「ごめん、電源がもうなくなるから」って皆にお断りして切りました。報道されていたから、真備町が大変だと、それでみんなが心配して電話してきてくれました。

それからは、主人と2人で話しながら、茶の間にいました。水はどれぐらい来ているかな？と思って、懐中電灯を持って、浸水の様子を見にちょくちょく外へ出ていました。

ずっと停電していましたので、主人の携帯の方は、バッテリーを温存するため電源を切っていて、テレビも映らないので、情報は私のスマホだけで。うちは、ちょうど、市からの避難情報の防災無線も、わりと、聞こえにくい地域なんです。窓を開けてもほとんど聞こえなくて。今回も、雨で聞こえなかったというわけではなくて、普段から聞こえにくいところなんです。

それでも、まったく聞こえないわけではなく、防災無線が聞こえてきても、ワンワンという音だけで、はっきりとした声が聞き取れないんです。もう、何を言っているのかわからないんです。

23:45 倉敷市が【避難指示（緊急）】発令　川南側の真備地区（洪水

警戒）

ひとつだけ聞こえたのは、川の右岸がどうのこうのという放送。右岸って、どっちかな？と思ってしまって、「お父さん、右岸っていうんだけど？」とききましたが、主人もわかりませんでした。真備町全体向けではなく、この地区だけに必要なことを教えていただけるとよく分かると思いました。唯一聞こえたその防災無線も、切羽詰まった言い方はしなくて、聞き取りやすように、ゆっくりと「川の～」ってのんびりした感じで言ってたんです。だから、余計に怖さを感じなかったんです。

7/7 00:00　倉敷市が【避難勧告発令】川の水位上昇が続き越水した場

合に立ち退き避難が必要な方を対象に発令（洪水警戒）

00:00頃　川右岸（右側）決壊

01:30 倉敷市が【避難指示（緊急）】発令　川北側の真備地区（洪水

警戒）

03:30頃　川左岸（北側）決壊

07:00頃　川左岸（東側）決壊

それで、次の日7日(土)の早朝、明るくなって気付いたら、もう家の庭に水が来ていて。「おい、おい、水が来るぞ。来るぞ」という感じで。その時は、もう、2階に逃げるしかないと。

スマホには、避難情報が入っていたんですけど、気付いた時には既に、外に出れなかったんです。水が腰の高さぐらいまできていましたから。家の中にまでは来ていなくても、外に出るのは危なかった。もう腰ぐらいまで浸かっていたら歩けませんよ。避難所（小学校）と言っても、数キロ離れていますし、水の流れもあって行くことはできません。

7月豪雨の翌年の台風（令和元年東日本台風）の被害があった時にも、テレビで見ましたけど、水がもう来ているのに車で逃げようとしている人がいるから、もうやめてと言いたかったです。道が低くなっているかどうか、わからない、水が来て初めてここはあっちより低かったんだなとわかるんです、人間の目って。車は怖いですよ。

それから、あの水の速さにはびっくりしました。来てからが速い。水位が上がってきてからは速いですよ。あっという間に車も浮くんですね。うちの車３台も少し高い所に移動させたけど、思ったより水が来て3台とも水没してしまいました。それに汚い泥水だから、病気とか、あとのことを考えると入りたくないんですよ。

そんな状態ですから、もう、外には絶対に出られないです。家は低い土地に建っているんです。家の基礎は少し高くしているけど、もう道へは出られないぐらい水が来てたんです。その時には、もう外には逃げられなくなっていて、家の中で2階に上がるしかなかったんです。それで、お釜の食べ残しのご飯をお釜ごと上げたり、タオルを上げたり、パンの残りとかいろいろ2階に籠城するつもりで、荷物を運びました。

それでも、まさか、1階が全部浸かって2階まで襲ってくるとは思わないから、４～５日ぐらい2階でパンとか食べて過ごす感覚で、2階で過ごせるようにしようと思っていたんです。

でも、水が階段に迫り出したら、もう、それからは速かったですからね。ザーッと。水があんなに速く上がってくるとは思わなかった。それで、助けを呼ぼうと消防署に電話をかけたが繋がらない。私達はスマホしか持ってなかったから、もうすぐ電池もなくなるし。だから、娘に頼んで連絡をしてもらったんです。

あとから分電盤を見たら、1階が停電していても、2階は電気を使えたようなんですけど、そのときには、そういうことが頭に浮かんでこなかったんです。夜中に懐中電灯で、分電盤の字を読むということも、できなかったんです。だから充電もできなかった。

濡れたら大変だなと思ったものは、2階に持ってあがりました。廊下にかけてあった絵とか、とりあえず見えるもの。それから、２、３日生活するのに必要なもの。そんなにたいしたものは持ってあがっていないけど、パンとか、おにぎりだったら食べられるかなと思って。それから、パソコンや印刷機も持って上がりましたけど、それを接続するコードや説明書も忘れて。でも、結局、2階の胸上ぐらいまで泥水がきたので、2階に持って上がったものも、全てだめになったんですけどね。

もう、2階で避難生活をするつもりだったから、上がったり降りたりして荷物を２階へ運んでいたんですけど。最後に、アルバムがあったのを思い出して、アルバムを持って上がりかけたら、半分ぐらい運んだところで、足元の畳がぶわっと、水で浮いたんですよ。

池の上に板を浮かべて走っていくような、あんな感覚。アルバムを両手で持っていたけど、ぶわっと落としそうな感じで。

慌てて２階に物を上げた後は、もう、そこから全然動けないから、階段を数えていたんです。水が上がってくるのを、あと何段。あと何段と。

主人が、「あと何段だ？」というから、「もういっぱいよ」と言って、ベランダへ逃げました。

ベランダで何を話していたのかは、あまり覚えていないです。とりあえず、もう最期かと思っていました。北から流れて来る水と南のベランダから見える水と、ずっと水ばっかり眺めていました。

水がだんだん迫ってきて不安だったので、近所に地域の繋がりのある人や、習っているパソコンの先生もいたから、そこに電話をして「私達もいるからね。大丈夫よ」と励ましあったり、「そこに救助が来たらうちにも2人いることを言ってね」と言ったり、そういう連絡をしました。

うちの裏にコーポがあったんですが、そこの2階の人は逃げていなかったようで、みんな、ベランダの塀の上へあがって、「もうちょっと辛抱しようよ。」って皆で声をかけ合っていたんです。もうちょっと、もうちょっとと言いながら。

空にはヘリコプターが飛んだりしていました。ベランダでタオルを振っても、報道だかなんだかわからないけど。なかなか助けに来てくれなかった。

　　　自衛隊の方がボートで助けに来てくれたのは、７日(土)の昼ちょっと前でした。そのときは、自衛隊が見つけて声をかけてきてくださって。それで、主人と二人で、ベランダからそのボートに乗りました。胸まで水に浸かって救助を待っている人は、怖かっただろうなと思います。いくら夏とは言え、水に浸かるというのはね。

自衛隊のボートには、だいたい20人ぐらい乗っていたと思います。結構、大きなボートで。次から次へと、救助してまわったんです。そこから、安全な矢形橋まで連れて行ってもらいました。

あとからなんですが、貴重品とか、ひとまとめにしておくことが良いのかなと思いました。でも救助されたとき、持って出られなかったんですよね。荷造りしていたけど、自衛隊の方が、最小限の荷物でというのに旅行に行くような荷物を持ってボートに乗るわけにも行かないし。

それから、荷物はリュックが良いです。私も、リュックを背負って両手が使えるようにしようと思っていたから、全部自分の薬や通帳を入れて、持っていきました。小さめのリュックでしたが、それは持っていけました。

自衛隊は人命救助が一番。だから、私たちを安全な矢形橋まで連れてきて降ろしたら、すぐにUターンして、別の方の救助に引き返されるんですよ。私たちは降ろされた場所で2時間待ちました。

そこには、幌がかかった自衛隊の大きなトラックがあったんです。救助された方の中に赤ちゃんを連れている方がおられて、3ヶ月ぐらいの赤ちゃんだったんですよ。少し雨が降ったりしていましたから、一緒にそこに入らせてもらいました。

待っている間、誰が助けに来てくれるのか自衛隊の方に聞いたら、ここから先は、消防か警察の仕事です。と言われてしまいました。自衛隊の方は、まだたくさん救助を待っている人がいるので、そっちに早く行かなければいけないということで。

ただ、私たちは、どこに行けばよいのか、何をしていればよいのかも、わからない。待つしかない。自衛隊はずっといられないでしょうから。もう誰もいない。助けられた人たちだけの集まり。どこかに電話をしようと思っても繋がらなくて。お嬢さんがトイレに行きたくなったと言っても、トイレが無い。それで、誰かがバスタオルを持っておられて、これを巻いて土手のほうでしておいでと言って。そんなこともありました。

それでも最後は、自衛隊のジープのような乗り物で、二万小学校へ連れて行ってもらいました。主人と二人。ただ、中には家族と離ればなれになってしまった人もいたんですよ。同じところへ連れて行ってくれると思うでしょう。それが、前の便は二万小学校へ、次の便は総社の方へという感じで。だから、二万小学校に行ったときに、体育館の外で電話ばっかりしている人がいたので、「どうされたのですか？」と聞いたら、「いや、息子たちは他所へ行ってるのです。」と言っていました。あの矢形橋まで来ていても、別れたりするようなこともあったようです。幸い私は、主人と二万小学校について、そこでようやく、落ち着くことができました。

40年ぐらい前にも、ここまでひどくは無いけど、床上浸水の被害はありました。この辺りに住んでいる方は、水害を経験したことがある人が、結構います。だけど、土手が決壊するまではいっていないから、今回も前と同じぐらいかなと思ってしまいました。主人もそういう感覚で、逃げなくても良いかな？床下ぐらいかな？という考え方だったんです。でもまさか、本当に決壊するとは。2箇所か、3箇所かな。3箇所も切れてしまった。

ハザードマップは知っていましたよ。避難所の場所も知っていました。でも、あれは南海トラフ地震とか、そういうためのものだろうと、思っていました。「津波とか来ないよ。」と思いながらも、一応、自分の家が浸水域にあるなということは知っていました。だから、まさか、水害でこんなことになるとは思っていなかったんです。そもそも岡山県は災害が少ないんです。でも、まさかのまさか。

誰でもそうなんですよ。自分のことだとは思っていないですよ。きっと。今回は助かったから良いけど、川に落ちた人もいました。川に見に行って。本当だったら死んでいるところですよ。その人が言うには、水の流れの中でも、浮かばずに材木とか、物が流れてくるんです。ボコンボコンとものすごい勢いで足にあたって、ズボンを履いていても、足の太ももから下のほうは傷だらけだったと言っていました。

決壊した様子を見に行って、スマホをいじりながら帰っていて、つるんとはまったんですよ。68歳ぐらいの人。男二人では、引き上げられなくて、三人でやっと上げたんです。それも若い人がいたから良かったと言っていました。

この災害で、私の近所の方が5人も亡くなっているんです。私と同世代ぐらいだから、余計にね。一度は避難をされたようですが、お位牌を取りに帰られていて、亡くなった方もいたということですから。この教訓は、逃げる。早く逃げる。とにかく早めに避難するということだと思います。

ですから、どこに逃げるかは、今はもう決めていますよ。

それから、今、避難経路を考える会議があるんです。真備町川辺地区の人でも地区の総合公園のほうに避難するという方が多いんです。だから、総合公園は、避難者でいっぱいになって、全員は入りきれないでしょう。

それから、避難所が近くに無い地区もあるんですよ。それでいざというときに、結構、避難が遅れて。だから、どこに避難するか、あらかじめ決めておくんです。

あとから聞いた話ですが、ある福祉施設は、災害がおこってすぐには、避難者の受け入れをしなかったそうです。後から受け入れたみたいだけど、水から避難をしていた時には入れてくれなかったと聞きました。そこは山の上にあって、うちから避難するのにちょうど良かったんですよ。

避難所に行こうと思っても、住民全員は行っても入れません。いっぱいですよね。立っているなら良いですけど、座ったり横になったりするには、ある程度広い場所が必要になります。今のままだと、皆が行ったら入れませんよ。

これは主人との話ですが、「うちは何人泊まれますよ。」というようなことを、事前にチェックしておいて。もちろん嫌な人もいますよ。どこが管理するのかという問題もありますが、「うちは５人ぐらいだったらお世話できますよ。」と。２、３日のことですよ。「良いですよ。おいでください。」というようなことを、この際、誰かが先頭になって決めていくようにしたら良いんじゃないのかなと思うんです。これから何があるかわからないですからね。

だから、知った人でも良いし、知らない人でも２日や３日、救援がくる迄の間ぐらいだったら、何かあるものを分けて食べて助け合えるようなことができるような地域にしたいなと思っています。

この間、アンケートをしたんです。自家発電機を持っている家は無いですか？とか、そういうような項目で、ぼつぼつ動いています。でも、こういうことは全体でしないと。社協も民生委員もみんなで、真備町全体でできたら良いのになと思っています。難しいとは思いますけど。

それから、声がけも大事ですよね。今回は、もう水がすでに来てたから、２階に上がれとか、屋根に登れとか、近所の方が声をかけてくれたんですよ。本当は避難準備情報や避難勧告が出たら、周りの人も一緒に声をかけて、近所の人と一緒に逃げたほうが良いでしょうね。

以　上